

第106回 地域まちづくり推進委員会ヨコハマ市民まち普請事業部会 会議録

日時	令和6年1月28日(日) 10:30~17:15
開催場所	横浜市役所アトリウム
出席者 【敬称略】	部会委員) 杉崎部会長、朝比奈委員、植松委員、川原委員、肥後委員、松村委員、山田委員 事務局) 横浜市：榊原、村瀬、安藤、秋浦、古谷、石田 市民セクターよこはま：加世田、伊吾田、尾崎 横浜市住宅供給公社：岡部、都出、田口、佐藤、土屋、高橋
開催形態	公開 (会場での観覧及びYouTubeでのLIVE配信)
議題	令和5年度ヨコハマ市民まち普請事業2次コンテスト 1 開会 2 整備提案の発表 3 審査員による情報収集タイムに向けたポイント整理 4 情報収集タイム 5 審査方法の説明 6 公開議論、質疑 7 公開投票及び結果発表 8 講評
決定事項	4件の提案のうち、以下の2件の提案を整備助成対象提案として選考 【整備提案名】<提案グループ名> 1 【HOMMMOKU もくりプロジェクト】 <HOMMOKU もくりプロジェクト実行委員会> (中区) 2 【リアルとバーチャルで夢を応援えだきんメタワールド】 <えだきん×夢叶きゃらばん> (都筑区)
審査基準	<b>1 創意工夫</b> ・住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデア、ユニークさ及びデザインへの配慮 ・整備工事における地域での費用や労力の負担方法などの工夫 ・整備した施設の維持管理・運営の実施方法などの工夫 <b>2 実現性</b> ・地域(地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等)での合意形成 ・関係機関との調整 ・整備する施設の維持管理・運営計画 <b>3 公共性</b> ・地域の課題やニーズの的確な把握、地域への貢献度 <b>4 費用対効果</b> ・整備の規模(数量)と整備による効果の妥当性 ・コスト削減の工夫

	<p><b>5 地域まちづくりへの発展性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備をきっかけに地域のコミュニティが広がる、又は深まる可能性</li> <li>・整備をきっかけに地域のまちづくり活動が活発化する可能性</li> <li>・他の地域によい影響を与える可能性</li> </ul>
<p>選考結果</p>	
<p>選考団体（投票数順）</p>	<p>委員講評</p>
<p><b>【提案名】</b> HOMMOKU もくりプロジェクト</p> <p><b>【提案グループ名】</b> HOMMOKU もくりプロジェクト実行委員会</p> <p><b>【投票数】</b> 14 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1次コンテストから2次コンテストの間に、地域から出た課題や要望に向き合い、これまでの活動や提案内容を見直しているところが評価できる。</li> <li>・近所の方に説明して回り、心配していた方からも同意が得られたのは大きな一歩だと思う。</li> <li>・周知を、口伝やコミュニティラジオ、イベントへのブース出展など顔の見える、声の届く関係で行うことで、小さくても人とのつながりを大切に育ててほしい。</li> <li>・黙々と歩くという意味の「もくもくもくりロード」という名前は、素敵なセンスだと感じた。</li> <li>・日常の稼働率をどう上げていくかが課題になると思うが、これからますます地域に根付いた活動となっていくことを期待</li> </ul>
<p><b>【提案名】</b> リアルとバーチャルで夢を応援えだきんメタワールド</p> <p><b>【提案グループ名】</b> えだきん×夢叶きゃらばん</p> <p><b>【投票数】</b> 13 票</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場の力やこれまでの取組で既に形成されているコミュニティをより発展させるための提案であり、それを地域が求めていることが分かった。</li> <li>・場の運営にあたってはこれまでと違う担い手のチームをつくるなど、いろいろな人を巻き込んで行ってほしい。</li> <li>・ボランティアでは長続きしないとあったが、お手伝いが当たり前前の文化を作るのもこの場所であればできるのではと思う。みんなが気持ちよく過ごせる場になることを期待したい。</li> <li>・「助け合える場」という言葉が印象的。一人一人が守っていきたい場所となることを期待したい。</li> </ul>
<p><b>資料</b> (資料1) 令和5年度ヨコハマ市民まち普請事業2次コンテスト整備提案集</p>	